

# 緑橋左岸土地区画整理事業



## 市民憲章

昭和四十五年五月五日制定

私たちは、自然にめぐまれ、はるか昔から文化がひらけていた学問のまち、産業のまち足利市を心から愛し、より美しい人々、より豊かにするためにこの憲章を定めます。

一、足利市は日本最古の学校のあゆまちはです。教養を深め、文化のあり高いまちをづくり、すべからば伝統をさらに発展させましよう。

一、足利市は美しいまちです。めぐまれた自然を愛し、清潔で健康なまちをうらましよう。

一、足利市は善意のまちです。理解と信頼をもって、みんなのしあわせのためにお互いを助け合いましよう。

一、足利市は希望にみちたまちです。明るく家庭をこころい、次世代にわたる口説いての希望をまたましよう。

一、足利市は伸びゆくまちです。しごとを愛し、みんなの創意で時代の進歩に貢献した活気のあるまちをこころいましよう。



日本最古の総合大学 足利学校遺跡

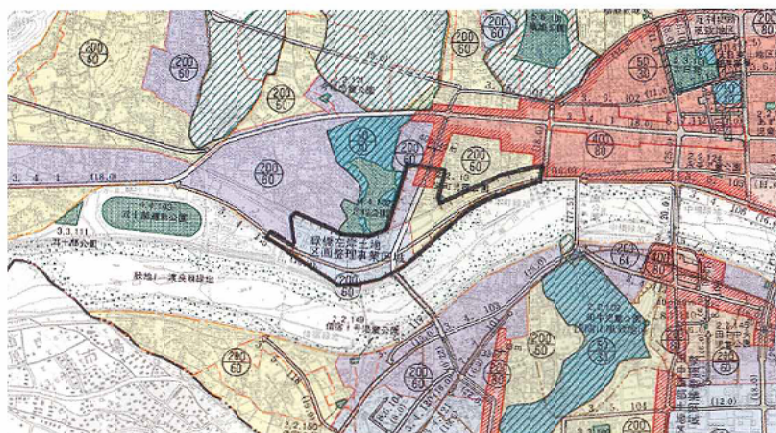


【整理前】



【整理後】

### 施行地区の位置



### 施行地区の概要

本地区はJR両毛線足利駅から西に1,500 mに位置し、北に既成市街地と都市計画公園足利公園に面しており、南は一級河川渡良瀬川、東は都市計画道路3・4・103足利・太田線、西に足利市今福浄水場をもって境とする約22.8haの地区である。

また、地区内人口は882名で人口密度は38.5人/ha、土地利用状況は公共用地27%、宅地59%、畑・山林2%、その他12%となっている。

### 事業の目的

本地区は渡良瀬川北側の本市の旧市街地であり、公共施設の未設備のまま市街化が進行し老朽化した住居が密集し、かつ住工混在による土地利用の障害をきたしている本地区は緑橋の架橋計画や両毛線の連続立体交差が計画され、市街地としてのポテンシャルが高い地区であり、渡良瀬川兩岸を結ぶ本市の市街化の基点として都市機能を再生させ、計画的な整備が期待されている。そこで本事業は足利市振興計画に基づき渡良瀬川左岸の市街地整備の一環として健全で良好な市街地造成を図り、もって公共施設の整備、改善等により公共の福祉の増進を資するものである。

事業名 足利佐野都市計画事業 緑橋左岸土地地区画整理事業

施行者 足利市

施行面積 22.8ha

施行期間 昭和59年度～平成13年度

総事業費 10,218,300千円

内 訳	国庫補助金	2,593,220千円
	県費補助金	166,946千円
	市 費	7,458,134千円

地権者数	223人	} 計262人(事業認可時)
借地権者数	39人	

公共施設設備

都市計画道路3・5・101号毛野西新井線 L = 518.1m W = 15.0m~34.0m  
 都市計画道路3・4・115号4丁目三重線 L = 1388.5m W = 16.0m

計 1,906.6m

区 画 道 路 幅員 11 m	L = 86.0m
区 画 道 路 幅員 8 m	L = 378.9m
区 画 道 路 幅員 6 m	L = 3,686.9m
区 画 道 路 幅員 4 m	L = 456.2m

計 4,608.0m

特 殊 道 路 幅員 3~4 m L = 53.0m

街 区 公 園	3カ所	4,398.1㎡
緑 地	1カ所	60.0㎡
ポケットパーク	3カ所	315.0㎡

計 4,773.1㎡

昭和 55 年 6 月	本地区の区画整理の話がもちあがる
昭和 55 年度	測量・調査
昭和 57 年 1 月	基本計画承認
昭和 57 年 3 月	都市計画決定
昭和 59 年 8 月	事業計画決定
昭和 59 年 11 月	第 1 回審議会委員選挙
昭和 62 年 2 月	事業計画（第 1 回変更）の公告
昭和 62 年 3 月	仮換地指定
昭和 62 年 3 月	起工式
昭和 62 年 8 月	本工事着手
平成元年 11 月	第 2 回審議会委員選挙
平成 4 年 10 月	事業計画（第 2 回変更）の公告
平成 6 年 11 月	第 3 回審議会委員選挙
平成 7 年 2 月	事業計画（第 3 回変更）の公告
平成 10 年 12 月	事業計画（第 4 回変更）の公告
平成 11 年 11 月	第 4 回審議会委員選挙
平成 14 年 2 月	竣工式



△起工式



△起工祝賀会



△下水道築造工事



△道路築造工事



整理前



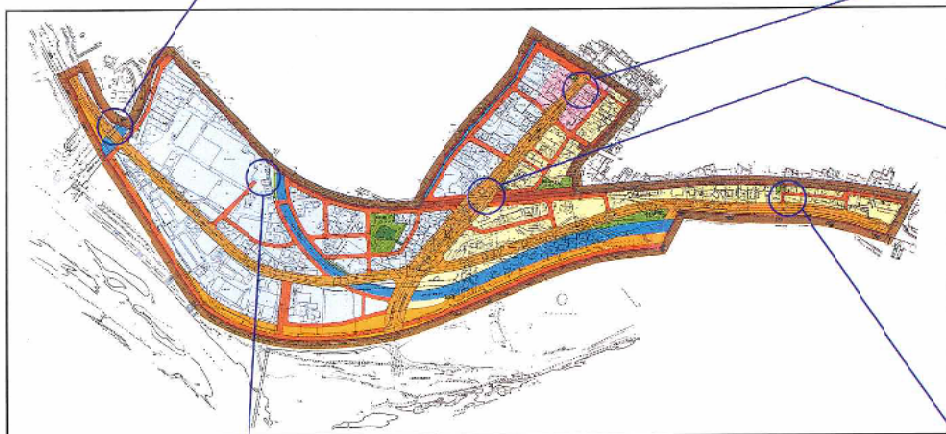
整理後



整理前



整理後



整理前



整理後



整理前



整理後

足利鐵道沿線に始まるこの地は、物産の工業教育発祥の地として、また足利における最初の近代工場立地跡として、郷土のまち足利の近代を築く記念すべき場所である。

沿革

明治 18年(1885) 足利工場が足利鐵道沿線に建設  
 28年(1895) 第六号足利鐵道沿線に於いて物産工業学校(現物産工業専門学校)を設立  
 30年(1897) 同校が足利工場へ移転  
 32年(1899) 各社工場が沿線に大々進出し、山形鐵道工場を建設  
 44年(1911) 同工場事務所棟を建設  
 大正 3年(1914) 全日本初の山形鐵道沿線に於いて物産工業学校(現物産工業専門学校)の両地を統合した近代工場が完成

その後、同工場は、第2次世界大戦中、大日本鐵道に合併し、戦後、ニチヨー、ユニードと改称されユニードと改称した。しかし、戦後不況により廃業し、昭和60年(1985)に工場が廃止、その跡に歴史を刻む。

本文指導：足利市文化財専門委員会副委員長 日下部 高明氏



ユニード(株)工場跡地に記念碑の建立